

い ず も 市 議 会 だ よ り

No. 6

平成18年(2006)10月26日



佐志武神社例大祭の神事華じんじばな（湖陵町）

●議会の動き.....	2	●特別委員長に聞く.....	7
●委員会報告.....	3	●一般質問.....	8
●意見書.....	5	●視察報告.....	19
●請願・陳情.....	6	●編集後記.....	20

7月豪雨災害の対策について活発に議論

9月定例市議会 報告

9月定例市議会では、執行部から76件の議案が提案されました。

補正予算3件の専決処分の承認については、7月豪雨により被災した公共施設の応急復旧や避難所など災害対策に関するもので、当面の応急対策として必要最小限のものが予算化されたものです。

また、本格的な災害復旧に関する予算などが盛り込まれた、一般会計第3回補正予算など6件が提案されました。そのうち、一般会計では、災害復旧費27億1,102万7千円が計上されました。

さらに、「出雲市国民健康保険条例の一部を改正する条例」をはじめとする条例案件23件、固定資産評価審査委員会委員の選任同意案件などその他のものが21件でした。

審議の結果、すべて原案どおり可決しました。

また、一年を通したのものとして新出雲市では初めてとなる「平成17年度出雲市一般会計歳入歳出決算認定」など決算案件23件についても、すべて適当と認め、認定しました。

また、議員提出議案として、意見書に関する2議案を提出し、原案どおり可決しました。(詳細は「意見書の審議結果」(5ページ)をご覧ください。)

平成18年度 第2回

出雲市議会（定例会）会期日程

開会 平成18年(2006)9月4日(月)

閉会 平成18年(2006)9月27日(水)

会期24日間

9月 4日(月) 本会議(開会、議案上程・説明)

6日(水) 本会議(一般質問・1日目)

7日(木) 本会議(一般質問・2日目)

8日(金) 本会議(一般質問・3日目、議案質疑、委員会付託)

12日(火) 総務委員会

13日(水) 文教厚生委員会

14日(木) 環境経済委員会

15日(金) 建設水道委員会

19日(火) 庁舎建設特別委員会

20日(水) 決算特別委員会(1日目)

21日(木) 決算特別委員会(2日目)

22日(金) 決算特別委員会(3日目)

26日(火) 総務委員会

27日(水) 本会議(委員長報告、討論、採決、閉会)

平成18年7月豪雨災害で被災された皆さまにお見舞い申し上げます

平成18年7月豪雨災害において、被害に遭われた市民の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。また、支援活動にあられた皆さまに対し、心より敬意を表します。

今回の災害では、家屋や道路の損壊をはじめ、農地や学校などにおいても大きな被害がありました。そして、何より3人の尊い生命が失われたことは、誠に残念です。心よりご冥福をお祈りいたします。

出雲市議会では、災害発生後の7月21日、直ちに市議会(全員協議会)を開催し、対応を協議するとともに、被害状況を確認するため、被災地を訪れましたが、災害のつめ跡は大きく、一刻も早い対応が必要であると痛感しました。

今回の災害を教訓とし、出雲市議会としましても、市民の皆さまの尊い命と財産を守るため、今後一層、災害に強いまちづくりに全力を注いでまいります。

◆常任委員会報告◆

「平田体育館の移転建設を求める陳情」は

継続審査
総務委員会

予算案件では一般会計第三回補正予算のうち、隣保館駐車場整備事業五千二百十万円、七月豪雨災害で被災した「わかあゆの里」復旧経費八千八百八十万円などについて審査し、原案どおり可決しました。

陳情では、四絡ならびに佐香コミュニティセンターの改築・整備を求める陳情が提出されており、現地を視察したうえで審査した結果、採択すべきものとしませんでした。

平田体育



建て替えの陳情が出されている平田体育館

「平田幼稚園の改築についての陳情」は

継続審査
文教厚生委員会

移転したうえで、東部拠点都市にふさわしい建物として、新出雲市の総合体育館の中心になるような規模を求めています。どこまでの機能を持たせるべきか、他

の施設とのバランスや利活用の可能性などをさらに時間をかけて慎重に審査する必要があり、継続審査としました。

「平田幼稚園の改築についての陳情」は昭和四十六年に建築された平田幼稚園が、老朽化と地盤沈下し、教育環境が悪化しており、速やかな改築を求めるものです。

昨年度と本年度に、遊戯室や保育室の建具の全面改修などが実施され、安全性の向上が図られたものの、教室や廊下は床が傾き亀裂



早期の改築が待たれる平田幼稚園

が入っている状況でした。また、平田幼稚園は、現在、十の小学校区から、百九十名の園児が

県営小田地区ふるさと農道の

早期完成を求める
環境経済委員会

通園している県内屈指のマンモス幼稚園です。遊戯室や廊下などが狭あいとなっており、早期の改築の必要性を実感しました。

しかし、園児の45%がバスで通園しており、中には五十分かけて通園している園児もいる状況です。園児・保護者の負担軽減や利便性の向上を考慮すると、単独園でなく、複数の園舎建設を前提に、さらに検討することが適当であると判断し、継続審査と決定しました。

県営小田地区ふるさと農道は、昭和五十七年に着工され、平成十五年からは「ふるさと農道」として農道として農道を進めています。

平成十九年度には完成の予定でしたが、国や県の財政状況から予算が縮小され、今後の見通しが立たなくなっています。



県営小田地区ふるさと農道の視察

要な役割を果たすもの
です。また、この度の
七月豪雨災害で全面通
行止めとなった国道9
号のう回路としての役
目を果たす路線です。
陳情は、この農道の
早期完成をめざし、事

七月豪雨災害への対応

建設水道委員会

業主体である島根県に
対し、市の積極的な働
きかけを求めるもので
す。
本委員会は、現地視
察を踏まえ全員賛成で
採択しました。

本委員会に付託を受
けた議案二十三件、陳
情三件のうち、先の七
月豪雨災害に係るもの
について報告します。

まず、神
戸川豪雨災
害に関する
陳情につい
ては、七月
豪雨災害に
より甚大な
被害を受け
た神戸川上
流部につい
て、一刻も
早い改修工
事の完成が
切望される
状況であり、
さらに、山



朝山地区で被害についての説明を受ける

陰自動車道建設用の仮
橋の撤去または改善策
の実施および中国電力
の発電用利水ダムであ

る来島ダムについて、
管理マニュアルの見直
しを求めるものです。
当委員会では、現地視
察を行ったうえで慎重
に審査をした結果、七
月豪雨災害の被害状況
を踏まえ、採択しまし
た。

土木施設災害復旧経費
などが、また、特別会
計として簡易水道施設
の災害復旧費、農業集
落排水施設の災害復旧
費などが計上されまし
た。そして、緊急を要
するものとして専決処
分された一般会計およ
び各特別会計の承認を
行い、災害復旧を進め
ることとしました。

特別委員会報告

本格的に動き出す新庁舎建設事業

庁舎建設特別委員会

八月に、「出雲市新庁
舎建設調査検討会議」
から新庁舎の位置や規
模・機能などについて
の報告書が市長に提出
されたことから、今回
の補正予算では、新庁
舎建設のための設計経
費などが計上されまし
た。

内容は、基本設計経
費三千万円など総額三
千六百二十万円と、一
億二千万円を限度とす

八月に、「出雲市新庁
舎建設調査検討会議」
から新庁舎の位置や規
模・機能などについて
の報告書が市長に提出
されたことから、今回
の補正予算では、新庁
舎建設のための設計経
費などが計上されまし
た。

内容は、基本設計経
費三千万円など総額三
千六百二十万円と、一
億二千万円を限度とす

では、早期
に新庁舎の
建設を行う
べきである
として、「出
雲市役所建
設促進に関
する決議」
を昨年十二
月議会で可
決しています。
今回の予
算措置によ
り、いよいよ
新庁舎建
設事業が本
格的に動き
出すことに
なります。



拡幅が予定されている県道駅前矢尾線と現市役所庁舎

弥生博物館は十億円以内で実施を

主要施設調査特別委員会

出雲弥生博物館は、

平成十二年に国指定史
跡となった「西谷墳墓
群」の保存活用にあわ
せ、埋蔵文化財調査セ
ンターと遺跡博物館の
機能をあわせもち、弥
生時代を中心とした古
代出雲の歴史を総合的
に調査研究し、また市
民の学習施設として計

画されました。

これまで、施設規模
や機能などについて慎
重に審査を重ねた結果
、国補助金などの積極
的な財源確保と、施設
配置の効率化などによ
り建設コスト削減に努
めること。策定委員
会で専門的に算出され
た面積を尊重し、三千

平方メートル以内での実施を検討すること。

建設事業費は、当初計画の十二億円（用地費を除く）に対し、十億円以内で実施すること。

費用対効果を常に念頭に置いた管理運営に努めること。以上のことを強く求める中間報告を行いました。



弥生土器の修復・復元作業

なお、本特別委員会では、出雲弥生博物館については、完成まで調査を継続します。

◆決算特別委員会公報◆

平成十七年度「新出雲市」の決算を認定

平成十七年度出雲市一般会計および二十件の特別会計決算認定について、下記の委員をもって審査を行いました。

十七年度は、新「出雲市」がスタートして

以来、初めての一年間を通じた決算です。また、合併協定に基づいた「新市建設計画」を具体的に実践するための予算および西尾市長の本格的な政策予算に対する決算でもありました。

国の経済は回復基調にあると言われながらも、地方においては税収入の減少、交付税の削減など厳しい状況にありました。その中で、西尾市長のもと事務事業の見直し、経常経費の削減など、行財政改革を強力に推進し、地方分権時代にふさわしい自治体の形を整えるべく前進してきました。

また、この間、「二十一世紀出雲の國づくり計画」を基本に平成二十六年までの十年間の総合振興計画、合併後五年間の前期基本計画、十八年度から二十年度までの中期財政計画が策定されました。平成十七年度の一般会計および特別会計の決算総額は、歳入千七百七十五億八千万円、歳

出千四百四十七億六千万円、繰越財源五億七千万円となり、実質二十二億五千万円の黒字決算となりました。各会計とも厳しい財源の中で、必要な事業に重点的に予算を配分し、効果的な事業実施がなされた内容の決算でした。

審査過程において、新出雲市においては補助金制度の見直しを行い適正な補助金交付に努めること。不用額が十九億円強となっているので予算編成時には適正な予算編成を行うこと。繰越事業の年度内完了に最大限努力すること。収入未済額および不納欠損額約十六億九千万円を減少させ収納対策をより強化し財源確保を図ること。貸付事業に対して対象者の理解を求め早期に返済してもらうこと。下水道事業においては、効率的に整備を進めることなどについて各委員からの要望がありました。

この要望については平成十九年度（西尾市政

三年目）予算編成に十分生かされることを強く求めました。

一般会計・特別会計いずれについても予算議決の精神が尊重され、各施策が効果的に推進されたものとし認定しました。

決算特別委員

- 委員長 宮本 享
- 副委員長 山根 貞守
- 委員 大国 陽介
- 委員 松村 豪人
- 委員 遠藤 力一
- 委員 萬代 輝正
- 委員 板倉 一郎
- 委員 川上 幸博
- 委員 直良 昌幸
- 委員 米山 広志
- 委員 今岡 一朗
- 委員 古福 康雅
- 委員 珍部 全吾
- 委員 荒木 孝
- 委員 寺田 昌弘
- 委員 (議長) 寺田 昌弘

意見書の審議結果

【意見書】

意見書番号	件名	審議結果
5	公共工事における建設労働者の賃金確保を求める意見書	原案可決 (賛成全員)
6	保育所運営費の一般財源化・調理室設置義務廃止に反対する意見書	原案可決 (賛成全員)

請願・陳情の審議結果

【請願】

請願番号	件名	提出者	審議結果
2	塩冶小学校プール改築整備に関する請願	出雲市塩冶町709 塩冶奨学会 会長 落合 久栄 他2名	採 択 (賛成全員)
3	「県営小田地区ふるさと農道」の早期完成を求める請願	出雲市多伎町口田儀686 田儀地区連合自治会 会長 梶谷 宗克 他3名	採 択 (賛成全員)

【陳情】

陳情番号	件名	提出者	審議結果
7	「21世紀出雲神話観光大国の創造＝大社門前町開発事業」出雲阿國座(仮称)の創設・泉源活用事業等の推進についての陳情	出雲市大社町杵築北2740 大社町町内会長連合会 会長 入江 紀久男 他26名	継続審査 (賛成多数)
8	「21世紀出雲神話観光大国の創造＝大社門前町開発事業」神門通り賑いの創出・観光型企業誘致の推進についての陳情	出雲市大社町杵築北2740 大社町町内会長連合会 会長 入江 紀久男 他26名	趣旨採択 (賛成多数)
9	「21世紀出雲神話観光大国の創造＝大社門前町開発事業」神門通り整備事業・歴史回廊整備事業等の推進についての陳情	出雲市大社町杵築北2740 大社町町内会長連合会 会長 入江 紀久男 他26名	採 択 (賛成多数)
10	出雲市役所新庁舎建設に関する陳情	出雲市大津町1131-1 出雲商工会議所 会頭 江田 小鷹 他5名	採 択 (賛成全員)
11	国の療養病床の廃止・削減計画の中止等の意見書採択等を求める陳情	松江市嫁島町9番35号 島根県保険医協会 会長 古沢 正治	継続審査 (賛成多数)
12	外園保育園園舎の改築及びそれに伴う解体費の助成を求める陳情	出雲市外園町204-1 外園福祉会 理事 大野 兼靖 他6名	採 択 (賛成全員)
13	「公共工事における建設労働者の賃金確保を求める意見書」の提出を求める陳情	松江市北田町96-7 社団法人島根県建築組合連合会 会長 山根 幸夫 他6名	採 択 (賛成全員)
14	四絡コミュニティセンターの改築を求める陳情	出雲市小山町653-2 四絡コミュニティセンター改築期成同盟会 会長 西田 郁郎 他4名	採 択 (賛成全員)
15	佐香コミュニティセンターの整備についての陳情	出雲市坂浦町347 佐香地区自治協会 会長 金森 興一朗 他4名	採 択 (賛成全員)
16	平田幼稚園の改築についての陳情	出雲市西平田町17 出雲市立平田幼稚園教育後援会 会長 仲田 和夫 他1名	継続審査 (賛成全員)
17	出雲市立平田体育館の建設を求める陳情	出雲市平田町2280-1 平田商工会議所 会頭 大島 治 他2名	継続審査 (賛成全員)
18	平成19年度出雲市農業政策確立に関する陳情	出雲市姫原町127 出雲市農政会議 会長 竹田 重一 他1名	採 択 (賛成全員)
19	2007年度(平成19年度)私立保育所(園)関係予算・他についての陳情(意見書提出含)	出雲市西園町329 出雲市認可保育所(園)理事長会 会長 松本 未吉 他1名	採 択 (賛成全員)
20	平成18年7月神戸川豪雨災害に関する陳情	出雲市所原町185 朝山地区自治協会 会長 土井 一顕 他1名	採 択 (賛成全員)
21	地域密着型サービスの改築等に関わる建設費の補助を求める陳情	出雲市塩冶有原町1-50 社会福祉法人ことぶき福祉会 理事長 梶谷 和夫 他1名	継続審査 (賛成全員)
22	出雲市内中学校の教育充実のための支援を求める陳情	出雲市大塚町1184 出雲市中学校教育支援協議会 会長 萬代 宣雄	採 択 (賛成全員)
23	増水時宇那手川流水の放水路への直接放水を求める陳情	出雲市上島町1031 上津地区自治協会 会長 金山 武男 他3名	趣旨採択 (賛成全員)
24	国民健康保険の改善を求める陳情	出雲市塩冶町1536-1 出雲地域社会保障推進協議会 会長 奥井 美治	不採択 (賛成多数)
	なぜ不採択	国民健康保険料が払えない世帯に発行されている資格証明書について、国民健康保険制度は加入者がそれぞれの能力に応じて負担しあうという相互扶助の仕組みで成り立っていることから、正当な理由なく、また面談にも応じていただけない方には、公平性の観点から止むを得ないと判断しました。	

【継続審査中の陳情】

陳情番号	件名	提出者	審議結果
2	「国指定史跡西谷墳墓群史跡公園・出雲弥生の森」の早期整備及び出雲弥生博物館(仮称)の建設促進を求める陳情	出雲市大津町1727-5 大津自治協会 会長 石原 誠一 他1名	採 択 (賛成多数)

斐伊川・神戸川治水対策特別委員長に聞く
 平成のオロチ退治

〜斐伊川・神戸川治水事業〜

斐伊川・神戸川治水対策特別委員会 宮本 享委員長

(聞き手 広報委員 多々納剛人 とき 平成十八年十月三日 場所 出雲市役所)

多々納 七月豪雨災害により、死者・行方不明者三名を含む甚大な被害が発生しました。最初にこのことについて、委員長のお気持ちをお聞かせください。

宮本 このたびの災害により、亡くなられた方に、心からお悔やみ申しあげます。また、

被害に遭われた方に対しお見舞い申しあげます。

いま改めて斐伊川・神戸川治水事業の必要性を強く感じているところです。

多々納 斐伊川・神戸川治水事業の経過や進みぐあいを伺います。宮本 治水事業は、



順調に進む斐伊川放水路事業 (写真は神戸川拡幅部)

百年の大型として進められた重たい事業です。特に、出雲市は中流部に位置し、斐伊川放水路事業に取り組んできました。議会としても、旧出雲市

においては昭和四十四年に治水問題を検討する特別委員会を立ち上げ、今日までの約四十年間にわたって、この問題に精力的に取り組んできました。この間、昭和五十七年九月議会において、島根県が示した治水に関する基本計画に条件を付けて同意し、事業も平成六年五月に着手し、今日に至っています。

国土交通省には、順調に事業実施していただき、放水路の開削は約五割、神戸川拡幅部における築堤は約八割が終わっている状況です。すでに、用地買収や工事に伴って約千八百億円が投入されています。

多々納 今後の課題としては、治水計画三点セットの中での大橋川改修がありますが、見込みはどうですか。

宮本 上流部のダム建設 中流部の斐伊川放水路事業 下流部の大橋川改修 といういわゆる三点セットがそろってこそ、この治水事業が完成し、災害を食い止めることができるようになります。上流部のダム建設は平成二十二年度末ごろ、中流部の斐伊川放水路事業でも平成二十年代前半の事業完成予定といわれています。

しかし、大橋川改修については地元の合意が得られておらず、事業が進んでいないことを大変心配しています。一日も早い事業着手に向け関係者の努力を願っています。

多々納 今回の豪雨災害の中では、神戸川上流部、特に所原地区の改修が急がれる課題

宮本 この区間は、県管理であり、県の方で事業に取り組んでいただいています。県財政が厳しい中で、今回の災害対策として緊急に取り組む方針を出され、喜んでいるところです。

しかし、安全度の高い改修を進めていくには、多額の事業費が必要と聞いています。平成十八年八月に、斐伊川水系への編入により、神戸川水系全河川が一級河川となりました。できれば国の事業として取り組んでいただき、一日も早く神戸川全川を改修していただきたという思いを強くしているところです。

多々納 今後の特別委員会の取り組みをお話ください。

宮本 治水事業により計画されている二十五橋のうち、十六橋が完成していますが、残りについては早期の完了が望まれます。

また、放水路事業の重要な部分として、開削部のいわゆる呑み口部分の分流堰(せき)の詳細が明らかにされていません。堰の問題については、早期に結論を出す必要があります。

先人の方々の努力により、治水事業はここまで進んできました。しかし、まだ解決されなければならぬ課題も数多く残されています。

私たち特別委員会としても、今後とも十分な検討と協議を尽くし、いわゆる「平成のオロチ退治」としての治水事業の早期完成をめざし取り組んでいく考えです。



宮本特別委員長

市政のここが聞きたい

一般質問

9月定例会市議会では21人の議員がそれぞれ以下の項目について質問を行いました。1人1問ずつ選んで(◎印のもの)掲載しています。なお、原稿は質問した議員自身が要旨をまとめたものです。

勝部 順子 議員 (9ページ)

- ◎7月豪雨災害の教訓
- 市営住宅の現状と、今後の建設計画について
- 児童の治療用眼鏡の保険適用について

坂根 守 議員 (9ページ)

- ◎山陰自動車道(出雲～多伎)の早期事業着手を
- 田儀櫻井家の整備と市道拡幅を早期に

松村 豪人 議員 (9ページ)

- ◎出雲市立総合医療センターについて
- 母子家庭への支援について市の見解を問う

萬代 輝正 議員 (10ページ)

- ◎新市のスポーツ振興への取り組みについて
- ゆめタウンイズミの出店計画の現状と今後の対策について
- 21世紀神話観光大国の創造について

板倉 一郎 議員 (10ページ)

- ◎地域ブランド権利化の取り組みについて
- 出雲阿國座の創設について
- 出雲市の雇用情勢について

高野 成俊 議員 (11ページ)

- ◎18年7月豪雨災害の防災体制について
- 18年7月豪雨災害 神戸川上流部の治水について
- 18年7月豪雨災害 斐伊川流域の災害対策について

米山 広志 議員 (11ページ)

- ◎神西湖周辺整備と資源開発
- 小・中学校校舎改修事業
- 平成18年7月豪雨

遠藤 力一 議員 (12ページ)

- ◎住みやすい市営住宅をめざして
- 阿國座(仮称)への市長の取り組み姿勢を問う

長岡 幸江 議員 (12ページ)

- ◎新庁舎建設について
- 子育て支援について

川上 幸博 議員 (13ページ)

- ◎林業政策について

曾田 盛雄 議員 (13ページ)

- ◎平田地域における治水対策について
- 河下港の整備について
- リフォーム補助金制度について

石川 寿樹 議員 (14ページ)

- ◎来島ダムの放水は適切に行われたか
- 神戸川上流部の河川改修
- 改修が進行中の河川に対する災害の備え

萬代 弘美 議員 (14ページ)

- ◎介護保険見直し後、介護ベッド、車いすなど必要なサービスの継続を
- 7月豪雨災害について 実態に見合った被災者支援および、今後の防災対策について
- 障害者自立支援法10月本格実施で求められる緊急課題の解決
- 「出雲弥生の杜壺園」建設計画について

福代 秀洋 議員 (15ページ)

- ◎図書館行政について

杉谷 寿之 議員 (15ページ)

- ◎出雲市のプレジャーボート対策について

広戸 恭一 議員 (16ページ)

- ◎FFF(サンエフ)事業で、ぶどうハウスおよび他の被覆ビニールの張り替え事業は対象となるか
- 出雲市農業の概要と農家の経営形態および農業の担い手とは
- 農業振興施策「21世紀出雲農業FFF(サンエフ)事業」について

牛尾 尚義 議員 (16ページ)

- ◎県営稗原ダムについて
- 来島ダムについて

原 隆利 議員 (17ページ)

- ◎「地域学校運営理事会」について

直良 昌幸 議員 (17ページ)

- ◎歳出の削減に向かって
- 安全・安心のまちづくりに向かってー7月の水害について
- 街路の美化の推進に向かって

珍部 全吾 議員 (18ページ)

- ◎大橋川河川改修について
- 出雲大社を中心とする観光政策について

大国 陽介 議員 (18ページ)

- ◎出雲阿國座計画は住民参加で見直しを
- 7月豪雨災害について
- 大型店イズミ出店で、市内業者の営業と市民のくらしは守られるのか
- 広報いずもは市民の貴重な情報源。配布体制の充実を



災害のつめ跡が残る「わかあゆの里」(乙立町)

勝部 順子
七月豪雨災害を教訓に

多くの被害を受けた今回の災害を教訓にし、今後の防災対策に生かしていただきたい。災害情報の伝達についての考え
避難のあり方(自主避難・高齢者、障害者の避難)
来島ダム放流時の情報の周知方法は今のままでよいのか
市長 早い段階で有線や防災無線などで

避難準備情報を出すべきだと考えます。
避難勧告発令の際は、サイレンで緊急事態を知らせます。そして、有線放送、ケーブルテレビなどで伝えるとともに、地区災害対策本部から町内へ周知するなど二重三重で行う必要があります。日ごろから町内活動が重要だと感じています。
災害という非常時に

本年度から山陰自動車道の多伎・朝山間の九キロメートルが事業着手された。しかし、出雲・多伎間が未定であり、災害時、緊急時に不安があるとともに、東からつながることにより輸送時間の短縮、交通混雑の緩和および沿線地域の産業経済文化の発展が実現すると思われる。
早期着手への見直しと建設実現への運動展開を伺う。
七月豪雨災害におい

坂根 守

山陰自動車道(出雲~多伎)の
早期事業着手を

おいては、少しでも危険性が考えられるときは避難することが基本です。自ら行動し、自ら考えるという住民自治の立場も必要です。行政としては、それを支援する体制を今後も強化します。
高齢者や障害者の方の避難に対する支援は、重要な課題として社会

て多伎地域で国道9号が三十五時間全面通行止めとなり、大混乱を余儀なくされた。
う回路としての小田一般農道の早期完成を待ちわびているが完成はいつか。
市長 出雲・多伎間の道路整備によるネットワーク化があつてこそ、全県にわたる広域観光、産業文化の振興、救急輸送の確保などの効果が発揮されま

福祉協議会などの協力を得て取り組んでいます。今後も関係団体と協議を進めて、体制を構築します。
佐田地区では、中国電力がサイレンや広報車などで周知しています。今後、乙立・朝山地区など下流域にも拡大するよう要望しています。

総合医療センターの決算状況について、単年度と累積の直近の数字をそれぞれ示されています。収支均衡について

松村 豪人

市立総合医療センターの
経営改善に向けて

は、何年度までに行う計画か。また、現時点での患者数の状況などを踏まえて、本年度の決算はどのような見込



全面通行止めとなった国道9号(多伎町)

ていきます。また本年度も十月二十二日に益田市において、国土交通省の道路局長にも出席していただき、島根県民総決起大会を予定しています。
小田一般農道の平成十九年度完成は間違いなくやらねばいけません。県の財政的な見通しがたないということですが、財源は付いてくるものですので強く県に要求していきま



総合医療センター(旧平田市立病院)

みとなるか。
さらに、将来にわたる存続を前提とし、運営形態をどう考えているか。
市長 平成十七年度の決算については、約二億一千四百万円の経常損失となっています。当年度末での未処理欠損金は、約四億五千七百万円となったところ
です。このような状況を踏まえ、収支均衡については、中期目標として、平成二十一年度末までに収益と費用を

均衡させ維持することができるとする考えです。
また、患者数については、外来が14.5%の減、入院が8.1%の減となっており、これはいくつかの診療科における医師の非常勤化などによる実診療日数が減少したことが原因と考えます。
いずれにしても厳しい状況ですが、現在の運営状況を存続していく方向で改革改善を重ねていく考えです。



スポーツ指導者の養成(出雲スポーツアカデミー)

未来を託す子どもたちがよりよいスポーツ環境で、さらに活躍できる場を拡充すべきだと考える。
出雲市スポーツ振興基本計画の基本施策「スポーツアカデミーの創出」について、最先端の技術や、指導方法などが出雲に根ざすよう選手の育成および指導者の養成を推進しな

萬代 輝正
スポーツアカデミーのめざすものは

ればならない。
市としての具体的な取り組みと、今後の計画について伺う。また全国レベルの選手の輩出について、具体的な種目があれば提示されたい。
市長 出雲スポーツアカデミーは、地域を代表し、国内外で活躍するスポーツ選手の育成、指導者の養成・人

新たに国において、地域団体商標制度が創設された。
しかし、六月現在、全国では、四百八十五件の出願がありながら、出雲市では、十六島(うづるい)のり・いずも和牛・多伎いちじくの三品と少ない。
出雲市もこの制度を活用し、出雲の特産品のブランド化へ積極的に取り組むべきである
と考える。市の取り組みを伺う。
市長 この問題は新

材確保をめざし、七月より中学生の卓球競技とバドミントン競技から開校したところだ。
現在は週に一回ないし四回の講座を実施しています。今後、陸上や剣道、体操、野球、サッカーなどの競技についても、関係団体との調整を図りながら可能なものから順次実施してまいります。このほ

板倉 一郎
地域ブランド権利化の推進を

しい政策テーマです。出雲のすぐれた商品が全国的に広く知られ、また販売促進につながっていくということから、この制度を積極的に活用していく必要があると考えています。
そのために、産業振興および観光振興の両方の戦略を兼ね備えた出雲ブランド協会を立ち上げるべく、早速一部の方々と相談に入っています。
例えば、大社のかまぼこを「出雲大社のか

か、受講生の保護者を対象とした講演、講習なども随時実施していきます。
また、習得能力の優れた年代である十歳から十二歳の子どもを対象に、各種運動体験や、基礎的な身体能力や知的能力を引き出す講座を来年度から開講する考えです。



「十六島のり」の摘み取り

をふまえ、この度の災害を教訓とし、今後の改善点をどう認識しているのか伺う。
被害を大きくした要因として、来島ダムの放流、西日本高速道路(株)の工事用仮設橋による河川せき止め問題が挙げられているが、市の認識と今後の対策を伺う。

はなく、この度も多くの方が浸水被害にあっている。抜本対策として、宇那手川の放水路への放水が挙げられているが、現状と計画を伺う。
建設事業部長
今後の教訓として、早めに徹底した勧告を行い、各地域団体の連携や有線放送をはじめ情報ネットワークを活用するなど、日ごろの備えが必要と考えています。

来島ダム放流については県、中国電力と検討委員会が協議中です。豪雨が予想される時の事前放流による治水機能の確保、放流情報の伝達システムの拡大など強く要望しています。地元からの要望もあ

り、市としても国、県に対し、強く要望を行っているところですが。現在、宇那手川の増水時には斐伊川放水路へ直接放水する方向で国、県において調整が図られている状況です。

米山 広志

「ぜんざい」の起源は「神在(かみあらい)」

出雲商工会議所の「神

参画しています。

西湖観光開発委員会」では、シジミなどの魚介類を中心とした新商品の開発、ヨシを活用した紙すきの研究開発など、調査研究が計画されている。

商品開発を行う中で、地域の農産物や水産物を原料とした取り組みは、商品の付加価値を高め、地域産業の活性化にもつながります。開発委員会の委員である「いずも農業協同組合」や「神西湖漁業協同組合」などの関係団体とも連携、協力していきたいと考えています。

「ぜんざい」の起源は「神在」ともいわれている。「ぜんざい」を含め、神西湖を活用した資源開発に対して行政のかかわりを伺う。

「ぜんざい」は「神在(かみあらい)」に振る舞うということや「神在もち」がその語源ではなかるうかと

市長 出雲商工会議所において「小規模事業者新規事業全国展開支援事業」が計画され、「神西湖観光開発委員会」が組織され、市も

「ぜんざい」は「神在(かみあらい)」に振る舞うということや「神在もち」がその語源ではなかるうかと

まぼこ」、平田の柿を「出雲の打ち出のこづち柿」とするなど明確なブランドを定めて打って出ていくべきであると考えます。

の店」が認証されています。この制度の充実も、一つのブランド戦略になると考えています。
地域ブランド化の問題の重要性を、特に今認識しています。

高野 成俊

七月豪雨災害の対応と今後の対策は

災害の対策・対応では、行政には大きな役

割と責任がある。警戒警報発令後からの対応



災害の凄まじさを物語る国道184号の陥没現場(佐田町地内)



ぜんざい席、うす茶席も設けられた神西湖畔月見の会

もありません。開発委員会において、そのブランド化活用について提

案していききたいと考えています。

遠藤 カ一
住みやすい市営住宅をめざして

戦後の住宅政策を量の確保から質の向上へと根本的に転換する「住生活基本法」が本年六月に施行されたことを受け質問する。

まず入居を待っている方が三百八世帯もあり、建て替え戦略だけではとても市民ニーズ

にこえられないということがわかった。市営住宅の入居規則には連帯保証人二名と敷金三カ月の要件があり、核家族化、少子高齢化により兄弟、親せきの数が少なくなり、保証人として頼める人が大変少なくなっている。ま

た、敷金が用意できず、申し込む前にあきらめる高齢者の方もいらっしやる。
すでに民間では連帯保証人、個人保証なし、敷金なしの賃貸物件や保証を代行するサービス会社も出てきている。連帯保証人制度、敷金のあり方を見直すべき時期だと思っておりますか。

市長 公的な義務感、入居される方、市民は自らのことは自ら律す

るといふ心構えを持つていただきたいのです。保証人制度は、保証人があるなしでなく、本人責任の原則で、何かあったときはあなたの責任でこつという財源措置を講じますよというような了解のもとに、やめてもいいと思えます。そういうシステムができるかどうか、検討していく課題だと思っております。



市営祥雲荘住宅(塩冶町)

長岡 幸江
新庁舎建設の基本構想を問う

新庁舎建設地の選定も終え、本格的な建設計画の策定が急務となっている。日本のふるさと神話大国にふさわしい未来にロマンが語れる象徴をイメージし、市民の活力が發揮でき、市の発展につながる市政の重要な機関としての機能が果たせる拠点でなければと考える。

規模の目標設定などの基本計画の背景、敷地利用計画、部門構成、外観、防災、省エネなど、計画策定の前提としての取り組み方針、構想を伺う。

庁舎の現状を踏まえ、新庁舎のあるべき姿、

市長 基本計画に先立ち、市庁舎問題が合併協議の中で新出雲市の課題であるという申し送りから考えたいと思います。合併当初、庁舎より市民に直接役



新庁舎建設地に決まった県立中央病院跡地



森林の再生を目指して(日御碕・漁民の森づくり)

に立つ施設整備を先行させるということやってきました。
初年度、新体制で新市の行政を執行するにあたり、本庁舎一本で収容し切れず数力所に分散しての業務では効率も悪く、市民の皆様にも不便だという声が高まり、早期に庁舎建設

に取り組むことになりました。
庁舎のあるべき姿としては、市民サービスの向上と能率的な執務環境を確保し、市民とともにつくり上げる住民自治のシンボルとすべきとのご意見を基本として、基本設計に当たりたいと思います。

川上 幸博
林業振興策を問う

出雲市全体面積の約65%を林野が占めている。この地域が持つ役

割は非常に大きく、例えば、温暖化ガスの吸収源、降水を貯蔵し河

川への流入を平準化させて洪水や濁水を防ぐ機能、土砂流失による災害防止機能など多面性を持っている。

このような機能を持つ森林資源を無駄なく有効に活用していく必要がある。森林資源の活用策として、林業振興を今後どのようにしていくのか伺う。

また、環境にも寄与する林業に対し助成も必要と考えるが方針を伺う。

市長 林業は、木材価格と国産材需要の低迷など厳しい状況です。しかし、国・県の補助事業を活用し、農林業

や菌床しいたけの振興のほか、ふるさとの森再生事業・出雲千年の森作り事業などの植林事業、後継者育成事業、有害鳥獣対策などに取り組んでいます。

林業は、産業と環境の両面から総合的に施策を推進する必要があります。また出雲市として、地場産業を推進するために、今後も引き続き観光施設や公共工事にも利用します。森林を環境財として考

えると、林業に対しふさわしい補助のあり方を関係の皆さんと協議していきます。

曾田 盛雄
平田地域における治水対策は

斐伊川下流部から六道湖周辺部における災害対策の取り組みは平田船川の河川改修から外れる園町沖ノ島地区の治水対策計画は西田放水路計画は

市長 国土交通省出雲河川事務所におい

ては、斐伊川下流部の緊急対策として、例年の二倍以上におよぶ樹木の伐採、たい積砂の撤去が実施されることになりました。樹木の伐採が七万立方メートル、土砂の掘削撤去が八万立方メートルの予

定ですが、不十分だと思うので追加を申し入れます。

湖遊館北部一帯約七十ヘクタールが冠水したことによって、市民生活に多大な支障を来しました。今後、問題点を地元とも十分協議して国、県に強く働きかけていきます。

平田船川の治水計画は、一九六八年度に流



懸命の水防作業(園町沖ノ島地区)

域流出の特性、地形を考慮し、上流の流域からの流出を直接日本海に流下させるという放水路計画も策定されています。しかしながら、多くの課題があります。現在の基本計画は平田船川、湯谷川の抜本改修を並行して早期に押し進めていただくように働きかけます。



放水のタイミングに疑問の声があがる来島ダム(飯南町)

石川 寿樹
来島ダムの放水は
適切に行われたか

来島ダムの水位が放水できる状態に達していたにもかかわらず、なぜ早めに放水を開始しなかったのか。ダムの管理者である中国電力が水量確保に固執するあまり、放水のタイミングを逸したのではないか。

来島ダムの放水に係わる県や中国電力の危機管理意識の欠如、仮設橋に対する西日本高速道路の管理の不手際など、今回の災害は極めて人災的要素が強い。本市として今後、原因分析を徹底的に行い、結果次第では関係機関

「今年十月から、使っているベッドを返さなくてはいけない」と悲痛な声が上がっている。ベッドの利用がでなくなる人が三百七十一人、車いすの利用ができなくなる人が七十一人で、今後の対応に不安が募っている。国に対して中止を求めると同時に、市独自

萬代 弘美
介護予防に逆行するベッド、車いす利用「打ち切り」の中止を

の助成を行ってベッドや車いすなどのサービスが継続して利用できるよう、強く求める。全額自己負担となる対象者にレンタル料を無料にするなど、独自の支援策が広がっている。出雲市でも百二十万円あれば可能。わずかな予算で、利用者が安心して療養できる。

に対し、損害賠償を求めると考えはないか。総務部長 市では、もっと早い時期に放流を開始していれば、急激な水位上昇を緩和できたのではないかと。の観点から、「来島ダム洪水時操作等検討委員会」の場で河川管理者である県および中国電力に対し、災害対策としての事前放流を今後のためにもルーラル化するよう求めています。来島ダムの放流問題は現在、県が設置した

検討委員会で調査や検証が行われています。また、山陰自動車道建設用の仮設橋については、河川管理者である県の許可を得て設置されており、今回の洪水に係わる影響や構造などについて現在、県と県で分析しています。それらの結果を踏まえ、復旧に向け必要な措置が講じられることになっていきますが、市としても、治水上の安全が確保されるよう強く要望していきます。

前向きな検討をすべきだ。健康福祉部長 平成十八年四月の制度改正で、介護予防自立支援の観点から、要支援者、要介護1の軽度者に対する電動ベッドや車いすなど五品目の福祉用具貸与について、保険給付の対象外となりました。ただし、起き上がりなどが困難



利用者の生活を支える福祉用具

な人や歩行が困難な人について、必要が認められた方は、引き続き保険給付が可能です。市としては、利用者が対象とならない場合の理由を説明するなど、周知を行っています。なお、経過措置が終了する十月以降の実態について把握し、必要があれば適切な対応を検討します。



駐車場の不足が指摘される中央図書館

福代 秀洋
中央図書館に駐車場を

現在、市内には旧市・町ごとに六館の図書館があるが、この位置付けには違いがあるのか伺う。

出雲中央図書館に、使いやすい専用の駐車場を整備するべきだと考えるが、その計画はないのか。また無線LAN（構内情報通信網）コーナー、神話コ

ーナーなどを整備してはどうか。

教育長 六館はフラットな位置付けとしていますが、出雲中央図書館は歴史・蔵書数から、実質的に中央図書館としての機能を持つています。また、電

算ネットワーク、インターネット整備、行政資料の収集に関しても、中心となり機能しています。

中央図書館は、現在商工会議所の方に、共有で四十七台の駐車場があるのみで、駐車スペースが非常に少な

杉谷 寿之

河川や漁港のプレジャーボート対策が必要

市内の河川や漁港には、多数のプレジャーボートが係留されている。その多くが不法係留であり、公共施設の損傷、周辺地域の生活環境や景観の悪化はなはだしい。

不法係留をなくすためには、どのような対策が行政として取れる

い状況です。休日には、隣にある県の合同庁舎の駐車場が利用できませんが、周囲の用地確保は厳しく、今後も現状で推移せざるを得ない状況です。

神話コーナー については、検討させていた

市長 今後、市町行政と県行政は合体していくべきだと考えています。合庁を共同のスペースとし、東中央広

場、駐車場として整備していた方向で、県に働きかけたいと思います。

か。河川と漁港の管理者が連携し、遊漁船の収容施設を計画実行すべきだ。水産庁が進めている「フィッシュヤリーナ」がそれであり、地方自治体の意欲的な取り組みが必要になっているがどうか。

市長 不法係留は深刻な問題で、特に大社



不法係留されている堀川のプレジャーボート

の堀川周辺は目にあまる大変な状況であり、私も実際に現場へ行って把握しています。

を集め、協議し、漁協と共存共栄を図りながら河川の利活用を進めていきたいと思っています。国が進めている「フィッシュヤリーナ」の設置もその一つの方策であり、県にのみ頼ることなく市として取り組んでいきます。

広戸 恭一

厳しい農業経営に補助事業の拡充を

二十一世紀出雲農業 FFF(サンエフ)事業は、農産・特産・畜産と三つの事業に区別しそれぞれの事業を支援し、生産の拡大を図り出雲市農業の振興を行うものと認識しているが、特に特産振興事

業補助について伺う。ぶどうハウスおよび他の被覆ビニールの張り替え事業は補助の対象となりえないか考えをたずねる。
産業振興部長 農業を取り巻く厳しい状況を考えれば、現



ぶどうハウスのビニール張り作業

状維持につながる施設などの更新の補助はむずかしく、生産振興を図る目的からすると、新規の取り組みを支援することを優先すべきと考えています。このことから、一般のぶどうハウス被覆ビニールの張り替えは、補助対象となりません。しかし、長期展張用ビニールを用いた高度化ハウスの場合、多くが団地化され、産地を支える中心的な施設となつていきます。ぶどうの生産者数、栽培面積

が減少するなかで、団地維持に不可欠な長期展張用ビニールの張り替えは、FFF(サンエフ)事業の補助対象として検討したいと考えています。検討するということがあるが、検討しただけでなかったということはないか。
産業振興部長 他の自治体はどうかわかりませんが、出雲市で検討するというものは、常に前向きでござ

牛尾 尚義
県営稗原ダムのさらなる活用方法を問う

産業振興部長 当初からの目的が違つたためそのような構造になつていません。仮に満水貯水量の半分ま

で水位を下げるとしても四十六日かかります。何十日も前から降雨量を予測することは難しく、逆に降らなかつた場合には渇水対策という本来の目的が達成できなくなつてきます。治水機能についてはあまり期待できませんが、再調査のうえ可能な範囲

を研究します。ダムの水を農地に送るパイプラインの完成は平成十八年度の予定が一年遅れて平成十九年度末になる見込みで、計画を立てている人は大きな誤算が生じる。特に、ダム建設に伴う残土処理場として提供した西光坊工区は事業が終わり、このたび地

権者に返還されるが、土地には水路がないため困つている。どのように考えているか。
産業振興部長 本年度のパイプライン工事が所を調整することにより、工事残土処理場ならびに老朽ため池の損傷などにより受益できなくなつた農地へ優先的に配水でき



農業用利水ダムとして建設された県営稗原ダム



地域・学校・家庭が一体となった学校運営をめざして

るよう検討協議を行つています。必要な水の確保は当然のこと

原 隆利

地域学校運営理事会の公開を

地域学校運営理事会の公開について規則では、うたわれていないが公開されるのか。理事会のメンバーの選任

あり、しかるべく対処します。

手続き、任期、また広報の責任者は誰か。

教育長 原則として、この理事会は公開です。また、会の開催

についても、曜日や時間について十分な配慮が必要だと考えます。理事の選任は教育委員会が行いますが、それに当たって各学校長から推薦があります。この推薦に当たっては学校長が地域の自治協会、コミュニティセンター、さらには地域のさまざまな団体の方々の意見あるいは自らの学校運営の構想に基づき、自らの責任と判断のもとで推薦するという事です。

任期は基本的には一年ですが、再任することができるかと定めています。ただ、同じ人が長らく務めることは、形骸（けいがい）化を招きやすいことから、一定のルール化も検討課題として受け止めさせていただきます。

直良 昌幸

歳出削減に向かって

弥生博物館（仮称）について

平成十二年三月に西谷墳墓群が国の指定を受け、平成十六年四月には墳墓群の史跡公園「出雲弥生の森」が暫定オープンした。平成十七年二月に古代出雲王墓館（仮称）基本計画策定委員会」の答申を受け、博物館

機能と埋蔵文化財センターの機能を合わせ持つ博物館設置事業計画が策定、予算化された。約十五億円の事業費が見込まれ、公園などの既設事業費も含めると約二十五億円の大規模な事業となる。年間の維持管理費は四千万円

地域への広報活動は、非常に大切だと考えています。当面は学校側が事務局を持ち、広報する形をとっています

が、将来的には新しいコミュニティセンターの形の中で行われるのが望ましい姿だと考えています。

が見込まれている。

合併特例債の運用が計画されているが、新庁舎の建設や災害復旧事業、幹線道路・下水道の整備事業を最優先すべきではないのか伺う。

市長 この構想は私の信念として、かつて文化財行政が保存から活用へと大転換すべきものと「ふるさと歴史の森づくり事業」を創



西谷墳墓群3号墓

設した経緯もあります。文化財の乏しい出雲圏域に眠っている、および弥生時代後期の埋蔵物を中心に集積し、分析評価を行い、その情報を全国に発信したいと考えます。

財源については、一般財源と特別交付税や各種補助金を導入し、施設を市民と国の財産にしたいと考えています。

珍部 全吾

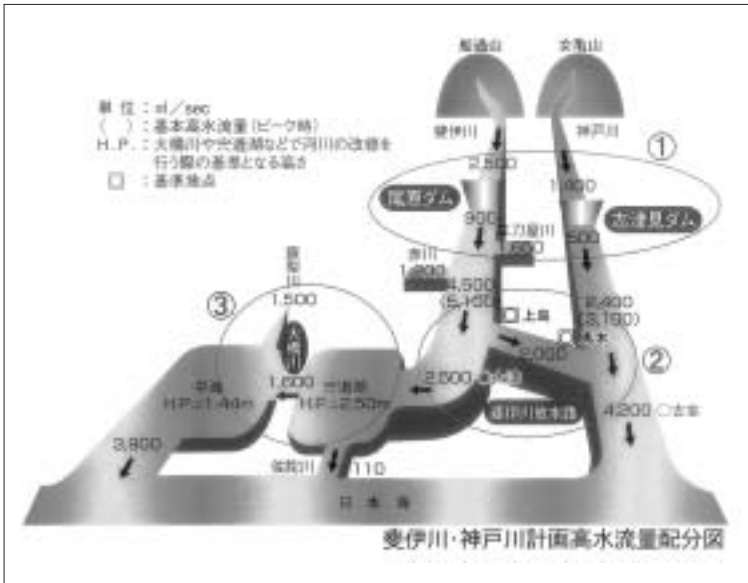
進まない大橋川の河川改修

今回の豪雨災害を経験し、今更ながら昭和五十七年、斐伊川放水路事業に同意した際、神戸川上流部の改修も国の責任においてやるべきとの約束を取り付けておけばよかつたと深く反省している。

ところで、斐伊川・神戸川治水事業は上流

のダム建設、中流の斐伊川放水路、下流の大橋川改修の三点セットで今日まで進められてきた。このうち、大橋川改修については今もって環境調査の段階であり、この調子では完成までに何年かかるか分からない状況にある。

今後、大橋川の改修



斐伊川・神戸川治水計画3点セットの概要

が完成を見ない段階で、「放水路に流させてくれ」といった事態も想定されるが、こうした状況を踏まえるなら、別の案を出す時期にきたのではないかとすれば、代案がないとすれば、せめてタイムスケジュールくらいは明らかにすべきではないか。

市長 大橋川は松江市の中心部を流れる河川であり、市街地の再開発や景観の問題などを考えると、なかなか

が完成を見ない段階で、「放水路に流させてくれ」といった事態も想定されるが、こうした状況を踏まえるなら、別の案を出す時期にきたのではないかとすれば、代案がないとすれば、せめてタイムスケジュールくらいは明らかにすべきではないか。

市長 大橋川は松江市の中心部を流れる河川であり、市街地の再開発や景観の問題などを考えると、なかなか

大國陽介

住民の理解が得られない
阿國座計画は見直しを

大社町で建設が予定されている「出雲阿國座」計画について住民アンケートを実施したところ大きな反響が寄せられている。

税金の使い方はふさわしいかどうかを聞いた設問では「ふさわしくない」と回答した人が約九割にも及び、この計画を「急ぐ必要はない」と回答した人が

難しい事業だと言えます。そうした事情もあり、他の代替案を模索する動きもありますが、国土交通省もわれわれも、これまでの方針を変える考えはありません。

ただ、国家財政的に大変な経費がかかりますが、それも国の大きな懐の中で計画性を持って進められてきており、断固やっつけていかなければならないと考えます。

23.6%、「必要ない」と回答した人は68.6%にも達した。多くの住民は計画に「ノー」であり、理解は得られていない。このまま進めることは民主主義のあり方が問われる。計画の抜本的な見直しを求める。

文化観光部長
町内会による総決起大会の開催や事業推進



抜本的な振興策が求められる神門通り

の陳情が提出され、市民の声も高まっていると認識しています。

夢を語ることは結構なことだが、行政と住民の見解が違うと言わざるを得ない。

市長 大社町のためだけでなくオール出雲オール日本のためにやっています。私も十四万八千市民の代表として全体の集約をしな

ればならない立場は同じですが、阿國座は交流・観光の連鎖反応を起こしていくものです。

住民の意見を無視してどんどん進めると、住民から市政が浮いてしまう。誠意を持った対応を。

市長 私はあえてアンケート調査しなくてもだいたいの雰囲気わかります。

視察報告

文教厚生委員会

中津市民病院(大分県)の病院改革

7月11日～13日

中津市民病院は、平成十二年に国から経営を移譲された病院です。

移譲にあたり、市内の患者動向などの環境分析を十分に行い、有識者、医師会、市民の代表などで構成された委員会で、病院の位置づけ、方向性、診療科などが検討されました。

その結果、患者の約三割が市外や県外に流出しており、その患者を市内へ引き戻し、最後まで面倒を見られる医療体制が必要だと結論されました。そして、市民病院で

担当し強化する診療科と、市内の優れた単科の病院(脳神経外科・整形外科)に任せる診療科をはっきりさせ、「地域完結型医療」をめざす方向性が出されました。

特に「二次医療の充実」と「小児医療の充実」に取り組まれていました。

小児医療の充実としては小児救急にも取り組み、小児科医十名が二十四時間体制で対応し、市民に喜ばれているとのこと

す。そのほか、医師確保の苦労や、経営健全化の取り組みを紹介され参考にようになりました。

(勝部 順子 記)



地域完結型医療の中核をめざす中津市民病院

総務委員会 裁判員制度とは

8月21日～23日

千葉市において「安心で安全な街づくり」、法務省において裁判員制度、富士ゼロックス㈱では情報セキュリティについて学びました。

この中から「裁判員制度」を紹介します。

この制度は、平成二十一年



裁判員制度を学ぶ

五月までに実施されることになっていて、今その準備が進められています。近年続発する凶悪犯罪や悪質な交通違反に対する判決が民意からいかに離れているのではないかと、この批判があることから、国民の感覚を裁判の内容に反映させ、司法に対する理解と信頼を深めようとする目的があります。

また、社会の諸問題を司法機関に任せきりにするのではなく、国民一人一人が同じ社会に生きる者として共有し考えていくことにより、犯罪を減らさせることができるのではないかと期待を込めて創設されたものです。

(牛尾 尚義 記)

庁舎建設特別委員会 庁舎建設の先行市を視察

7月5日～6日

現在、庁舎を建設中である岩国市(人口十五万三千二百八十五人)と、すでに完成している廿日市市(人口十一万八千四百七十七人)、井原市(人口四万六千七百六十一人)を視察しました。

調査事項九項目、その中で特に出雲市でも参考になると思われる次の四項目を中心に視察しました。

建設の基本方針

基本設計

実施設計業

者の選定方法

施設の規模・概要、敷地面積

建設にあたって配慮される事項

設計者を決定するに

は、いずれも

プロポーザル方式が採用

用されています。

(出雲市におい

て)



円形の本会議場を視察する(井原市)

てもこの方式が採用されることになりました。)

私たち委員会としては将来的にも対応できる庁舎建設を進めるため、基本方針や規模・概要・敷地面積などについて、今後、執行部へ申し入れを行う考えです。今回の視察を生かして、市民のために早急に無駄のない機能的な庁舎建設をめざします。

(多久和 康司 記)

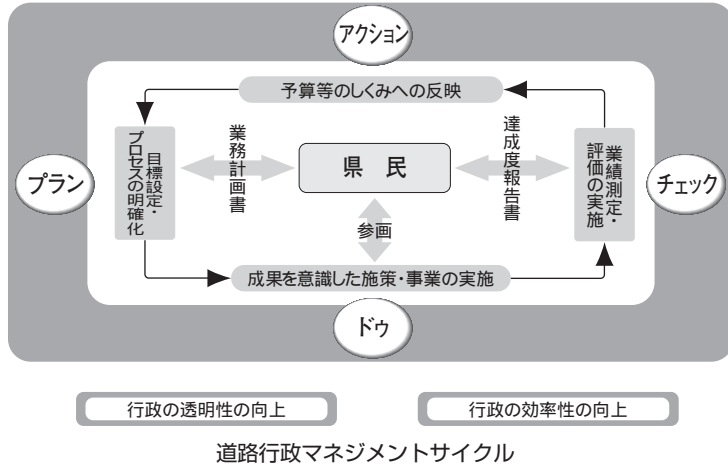
富山の道路行政マネジメントに学ぶ

7月18日～19日

「道路行政マネジメント」とは、事業の成果を定量的に示す成果指標を用いて、事業の成果目標を定め、事業実施後に目標達成度を検証し、次年度事業に反映させていくシステムです。プラン・ドゥ・チェック・アクションの四つの項目をサイクルさせながら道路行政の効率性を高めるとともに、一連のプロセスを公表することにより、きめ細かく皆さんへの説明ができると思います。出雲市も合併し、各地区への連絡道路の整備が急務となっています。また、渋滞ポイント、交通量が多いにもかかわらず歩道の未整備道、災害や交通

事故により通行難道路などを検証していく必要があります。これらの実情を解消することが交通渋滞損失の緩和や交通事故の削減、災害時における回路の形成につながるものと考えます。出雲市として、この制度を取り入れ、より安全で住みやすいまちづくりを行うことが必要です。

(川上 幸博 記)



安芸高田市 読みやすい誌面をめざして

8月1日～2日

安芸高田市は、平成十六年に高田郡六町が合併して誕生しました。出雲市同様、議員が主体となり、広報特別委員長からは議会広報誌に対する熱意を、ひしひしと感じました。読みやすい・読んでもらえる広報誌のために、次のような点に特に注意して制作にあたっているとのことでした。記事、見出し、写真、余白がページ全体に占める割合を四対二対二対二

(福代 秀洋 記)

編集後記

七月の大災害でお亡くなりになった方、被災された皆さま方に心からお見舞いを申し上げます。また、炎天下、復旧に当たられたボランティアをはじめ関係者の皆さまに、深甚なる敬意と感謝を申しあげます。さて、今期定例議会の一般質問で、実に十一名の議員が災害問題を取り上げました。かく言う私もその一人で、私事で恐縮ですが、乙立と朝山のぶどう園を一夜にして失い、身をもって自然災害の恐ろしさを体験しました。

日が経つに連れ、「ダムを守るためにわれわれが犠牲になった」との声も相次いでいます。この度の災禍を、果たして「天災」の一言で片付けてよいものでしょうか。

今後、徹底した原因分析を行い、二度と今回のような苦しみを味わうことがないようにしたいと思います。

(石川 寿樹)

議会に関する問い合わせは

〒693-8530 出雲市今市町109-1

出雲市議会事務局

電話(0853)21-6579 ファックス(0853)24-1720
ホームページ <http://www.city.izumo.shimane.jp/>
出雲市ホームページの中の「市議会情報」をクリック
メール gikai@city.izumo.shimane.jp

広報委員

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|----|
| 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 副委員長 | 委員長 | |
| 寺田 | 荒木 | 長廻 | 多田 | 今岡 | 山代 | 米山 | 坂根 | 石川 | 多々 | 遠藤 | 大國 | 長岡 | 福代 |
| 昌弘 | 利孝 | 和康 | 一朗 | 裕始 | 広志 | 守樹 | 納剛 | 力人 | 陽介 | 幸江 | 秀洋 | | |